

日吉台地下壕保存の会

会 報

第47号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費)一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会

会計のお問い合わせ： 白鶴 邦子 港北区下田町1-4-14 045-563-3760

その他のお問い合わせ： 喜田美登里 港北区下田町2-1-33 045-562-0443

各地の戦跡保存の取り組みを
報告するパネリストら

戦跡保存に向け、貴重な意見や問題提起が相次いだ
戦跡シンポジウム＝南風原町中央公民館

「戦争遺跡を戦争体験を継承する教材として積極的に活用すべき」「戦跡の連関性を国内、アジア・太平洋の視点でとらえることが大切」。二十一日、南風原町で開催された「第二回戦争遺跡保存全国シンポジウム」。戦後五十三年を迎え、戦争体験者が年々減る中で、新たな「語り部」としてクロスアップされる戦争遺跡。シンポでは、全国各地で戦跡の保存活動に取り組み自治体や市民団体の代表から、戦跡保存や文化財指定に向けた貴重な意見や問題提起が相次いだ。シンポの後には開かれた三つの分科会では、それぞれのテーマに沿って、戦跡保存の在り方を議論した。

沖縄タイムス
98・6・23より

戦跡シンポ アジア・太平洋の視点も必要

目次	ページ
第2回戦争遺跡保存全国大会	1～3
第6回横浜・川崎平和の ための戦争展 報告とお礼	4
同 アンケート(感想)集	5～6
会計を担当して	4
「98平和のための戦争展 かながわ」を終わって	6

連載日吉台地下壕

当時の関係者の思い出話25 7

運営委員会報告 8

戦争遺跡保存

—全国シンポに向けて—

〇3〇

渡辺 賢二

神奈川の現状と課題

戦前の神奈川県には首都防衛のため海岸から内陸にかけて数多くの軍事施設があった。特に、米軍がマリアナ諸島から直接B29などで空襲してくるようになる

一九四四年からは本土決戦のための軍事施設が多つくられるようになった。

神奈川県の現在、沖縄県に次ぐ第二に米軍基地の多い県となっているのも、また、地下壕が異常に多いのもそのためである。

それらの軍事施設の中で戦跡保存運動が起っている三つの例を紹介したい。

第一は日吉台地下壕（神奈川県横浜市）保存運動である。十年前から保存の会がつくられ現在六百人の会員を擁して地道な活動を続けている。保存を求めている地下

壕は一九四四年七月ごろから掘られ、九月末からは連合艦隊司令部がはいり、長官、幕僚たちが丘の上から指揮をとり、暗号隊と通信隊の兵士がこの地下壕で仕事をしていた。そして、ここから、レイド作戦、沖縄戦、特攻隊、戦艦大和の出撃などの指令が出された。

の労働者が動員され、その中には約七百人の朝鮮人労働者も含まれていた。現在、地下壕の入り口付近が開発により破壊の危機に瀕していて国や地方自治体による文化財指定と保存が急務となっている。

日吉台地下壕から北西約二・五

日吉台地下壕

会員600人で保存運動

沖縄戦との関連多い

のである。多くの若者がここから

出された命令によってわたつみに消えていった。地下壕の長さは、

現在の慶応大学日吉のキャンパス下だけで約二・五キロもあり、日吉周辺全体では延べ約五キロを超えるものである。掘削には当初、海軍設営隊があつたが人手不足のため一九四四年十月からは民間

のとろに、第二に紹介する蟹ヶ

谷地下壕（神奈川県川崎市）がある。ここでも保存の会がつくられ

運動が行われている。ここには昭和初期に海軍通信隊蟹ヶ谷分遣隊が設置されていたが一九四三年に戦局悪化にともない爆撃にも耐えられる「耐強受信用」の壕がつくられた。これが今も残る地下壕で

どが残存しているところから現在の

所有者である明治大学の学内と川崎市で保存の組織がつくられて運

動が行われている。音声研究所は陸軍の秘密戦のためにつくられたもので陸軍中野学校と運動したものであった。秘密作戦の人的育成が中野学校でなされその秘密要員がつくられ兵器は音声研究所で

ある。ここでは、台湾沖海戦やフィリピン沖海戦、沖縄戦などの受信が行われ、ケーブルで日吉の連合艦隊司令部に伝えられた。当時勤務していた武沢文夫さんの話では「沖縄戦の苦境も刻々入ってきていた」という。この地下壕はマニラ建設のため破壊の危機に直面したが保存の会の熱心な運動で市有地と交換して一部分をのぞき現況保存ができることになった。現在、文化財指定と保存・公開を求める運動が行われている。

第三は、旧陸軍登戸研究所（神奈川県川崎市）の保存運動である。動物慰霊碑や木造建物二棟などがつくられていた。特殊無線機、生物化学兵器、偽造紙幣などが製造され、実際に使用された。そして、本土決戦体制の準備がはじまり沖縄・台湾作戦が決定される一九四四年夏には最後の決戦兵器として風船爆弾がここで開発された。そして、沖縄などを「前線」つまり「捨て石」と位置付けた本土決戦体制が決定された四五年一月ごろには風船爆弾が本土三力所の基地からアメリカに向け打ち上げられていたのである。音声研究所で開発された風船爆弾も沖縄戦と同様、「国体護持」に固執しつつ本土決戦を運りせる作戦として実施されたのである。明治大学人文科学研究所では三力年にわたってこの研究所の研究を行ってきたがその研究成果の公表と保存が期待されている。

神奈川県戦争遺跡をみると沖縄戦と関連性をもっているものが多い。それぞれの遺跡の特徴を分析するとともに沖縄戦との関連を深めて保存運動がさらに進むことを期待したい。

（法政大学第二高等学校教諭）

戦跡保存全国ネットワーク報告

1998.7.19 新井 揆 博

第2回戦争遺跡保存全国シンポジウムが、6月21日・22日の2日間、沖縄県那覇市南風原町で、全国から430名の参加によって行われました。全国各地での戦争遺跡の現状と、保存と、活用に向けて私たちの運動課題と方向性について話されましたが、画期的な集会になりました。(略)

昨年7月、長野県松代で第1回戦争遺跡保存全国シンポジウムが開催され、「戦争遺跡保存全国ネットワーク」が結成されました。

もちろん結成されるまでには前史として沖縄県南風原町の取り組みなど運動の蓄積があったからです。沖縄の一つの町、人口がわずか3万人の南風原町が全国で初めて1990年に戦争遺跡を町の文化財に指定したことから始まります。その町では、南風原陸軍病院壕を文化財として指定するにあたって、3つの基本理念を示しています。そのうちの一つに、壕の文化財としての価値について確認していますが、その理由として「南風原陸軍病院壕は戦争の悲惨さを教える歴史の生き証人」と明言することで、従来の「正の遺産」という文化財に対する考え方から、戦争に起因する「負の遺産」も文化財として価値があるという新しい概念を示しました。すなわち、アジア・太平洋戦争での沖縄戦を抜きに南風原の歴史は語れない、その象徴としての病院壕の存在は町民にとって掛け替えのない共有財産であるということを示したのです。(略)

文化庁は1995年3月に「特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準」の一部を改正し、第二次世界大戦終結頃までの政治・経済・文化・社会等あらゆる分野における重要な遺跡を史跡指定の対象にしました。これによって広島の実験ドームは国の史跡に指定され、96年12月に「世界遺産」に登録されたのです。

現在、全国で文化財に指定されている戦争遺跡は、国の指定が1件(広島)、市指定3件(宇佐市・東京都東大和市・茂原市)、町指定1件(南風原)、村指定2件(沖縄上野村・群馬県東村)を数え、少しずつではありますが年々増加しています。(略)

このシンポジウムでは、戦争遺跡の保存運動の課題として、基調報告の中で6点にわたって提起されました。それは①戦争遺跡の調査・研究の促進、②戦争遺跡の学習・保存運動の拡大③戦争遺跡の文化財指定・登録の拡大、④保存活用方法の検討、⑤平和博物館建設運動との連携、⑥戦跡の調査・研究・保存対策への公的援助などの提起でされました。(略)

全国ネットワークとしては、地方公共団体が、地域の戦争遺跡を文化財として認知して文化庁に報告するとともに、独自に保存と史跡指定の術を講ずることを強く求めていくことを確認しました。また、大会アピールにも示しましたが、戦争遺跡について保存のための保存に終わることではなく、戦争の真実を学び平和を考えるための史跡として、戦争遺跡をどのように活用するかについても広く市民の声を聞きながら積極的に対応することを確認致しました。私たちは、平和を願う全国の皆さんと力を合わせて運動に取り組んでいきたい所存です。どうか皆さんよろしくご協力をお願いします。

賛同者の皆様

『第6回 横浜・川崎 平和のための戦争展』—— 報告とお礼 ——

まだまだ暑い日が続いております。

皆様におかれましては御健勝で御活躍の事とお慶び申し上げます。

去る7月18、19日「第6回 横浜・川崎 平和のための戦争展」は両日共に大勢の方々のご来場を頂き、成功裡に終える事が出来ました。ひとえに御賛同下さいました皆様方の御力添えの賜物と心よりお礼申し上げます。

有り難うございました。

戦後53年も過ぎ、戦争の実相を語り伝えるのも「人からモノ」の時代に移りつつあります。平和を願う、形ある教材として重要な戦争遺跡の保存を強く訴える活動を、これからも進めて参りたいとおもいます。

御支援 御協力の程よろしくお願い申し上げます。

「第6回 横浜・川崎 平和のための戦争展」実行委員会

代表 白井 厚

1998年8月30日

下記 会計報告致します。

収入の部		支出の部	
前回繰越し金	34,493	会場費	16,830
賛同金	201,770	運営費	74,919
カンパ	106,457	事務通信	95,544
資料代	2,300	印刷費	10,520
雑収入	1,050	材料費	6,292
		交通費	33,955
		謝礼	73,000
計	346,070	計	311,060

346,070 - 311,060 = 35,010

次回繰越し金 35,010 円

有り難うございました。

会計を担当して

幹事 白鶴 邦子

いつも会費納入ありがとうございます。皆様方のご理解あるご協力で会の活動が続いていること、心よりありがとうございます。くお礼申し上げます。

戦後も五三年がすぎ、戦争体験者が年々減る中で、過去の事実を伝えるものは「ヒトからモノ」への時代へと変わって来ています。陸軍登戸研究所、蟹ヶ谷の地下壕と合せ、日吉台地下壕の保存は、戦争遺跡に込められた歴史の中から、平和を願い、命の大切さを学ぶ生きた教材として、大きな役割があるのではないのでしょうか？保存の現実へ向けこれからは共に研究調査をしてゆかなければならないのではと痛感いたします。益々のご協力よろしくお願いいたします。

横浜・川崎平和の

ための戦争展

アンケート

〈感想相心〉 集

★貴重な資料の展示ありがとうございます。何よりも学生さん達の熱心な説明にはとても嬉しく思いました。

先日は日吉台地下壕を見学して、実際に訪れて自分の目で見るこの大切さを痛感しました。是非これらの跡地が文化財として保存され、沢山の人が訪れて平和のこと戦争のことを考えられるようにと願っております。 五〇代女

★何も知らずに来ても、地下壕がどういったもので、特攻隊が何だったのか、よく理解できた。遺品からも戦争の無残さが見て取ることができた。 一〇代男

★戦争のことを少し間違った見方をしていたと思う。これ

からも学校の日本史で勉強していきたいと思う。 一〇代男

★本屋で小林よしのりの「戦争論」をめくったことがある。この本の内容が展示を見てよくわかった。 二〇代男

★今、学校で大東亜戦争のことをやっている。先生が言ったことだけじゃなくて、ほかにもいろいろなことがあり、びっくりした。昔の人が英語が書けることを知ってびっくりした。日本は中国にいろいろ悪いことをしていたのが、印象に残った。戦争は絶対にやってはいけないと改めて感じた。 一六歳男

★今日はじめて見たものもあれば、学校やテレビで見たり聞いたりしたものもあった。軍服はじめて見た。遺書はどうやって、どこで書いたのだろうかと思った。 一六歳男

★上原さんのご親族にお目に

かかれよかった。

すっかり平和を守るために私も地味な行動を地域で続けていくつもりです。いろいろとご苦労さまのことと存じます。 催し力強いです。 女

★小島さんの戦争体験談を聞いて、当時の日本軍の様子がわかった。学校の教科書には日本がやった悪いことは書いてないのでとても参考になった。僕のお祖父さんも戦争に行き、足には拳銃の弾の跡が残っていた。召集令状が来た時、死を覚悟したと言っていた。これからは戦争の話をいろいろな人にしてあげてください。ありがとうございます。 一七歳男

★戦争中の国内の話は、お祖母さんから聞かされていたが、小島さんからは外国での話が聞けてよかった。これからももっと沢山話して欲しいと思

った。 一六歳男

★展示を見て授業でやった内容が少しずつ見えてきた。

小島さんは当時中尉で、戦争の体験をその場面を思い浮かばせるように話してくれてとてもよかった。 一六歳男

★負けるに決っている戦争を突っ走るから原爆を落とされるのです。早く止めておけば広島・長崎の悲劇はなかった。物事は決断が必要。

昭和一九〜二〇年頃陸軍でも「我が国はマッチ箱一杯の物質で敵を二〜三〇万人やつつける兵器を研究中」とか言っていた（これは原爆のこと）。私は戦争を逃げ回って助かった。 七三歳男

★経済不況とともに偏狭なナショナリズムが幅をきかせています。ヒットラー、ムッソリーニ、日本軍部の台頭が経済の危機的状況と軌を一にし

て始まった事を、歴史の教訓としなくてはならないと思っています。昨年、湘南地域で開催される予定であった「戦争展」(中国を中心とした)が右翼街宣車の脅しにより中止に追い込まれ、今年、横浜で上映された「南京一九三七」のスクリーン断載による打ち切り等、非常に愚かで、卑劣な暗い勢力が浮上しつつあるようです。多くの日本人は、世相が悪くなってくると思考停止がますますひどくなり、情緒的な旧い右翼思想(「日本民族が世界一純粹で優れている!」「日本が悪くなるのは、諸外国の干渉による!」等)が、川底に堆積している汚物のように淀み出しています。非力ながら、私も細々と考えること、と活動を続けていますので、若い方々中心に頑張ってください。

★特攻隊の先輩諸兄の冥福を祈るばかりです。

最近の日本が、不景気と先行き不明の不安から、またぞろ変テコな国家理論が一人歩きし出します。そんな中で高校生の皆様が私たちにしっかりとした「言葉」と「考え方」を披露してくださり、感動しました。大人達も負けないで、しっかりなくてはと自戒しました。ありがとうございます。

六〇代男

★高校生や大学生の話はなかなか内容豊で面白かった。展示についてはアジアの人たちがどう見ているかという視点も出して欲しいと思います。

五〇代男

★豊昭学園の発表を聞いて、僕も戦争について調べてみようと思いました。一五歳男

★展示を見て一番心に残ったことはユダヤ人を人だと思っていないナチスのことです。

第6回横浜・川崎
高校生の姿もある「平和のための戦争展」
＝かながわ県民センター



神奈川新聞98.7.19より

ユダヤ人だろうが肌の色が黒や白や黄色だろうがすべて同じ地球上にいる人じゃないかと思った。仲良く平和な世界になって欲しい。一六歳男

「98平和のための戦争展
かながわ」を終わって

幹事 佐相 康雄

去る八月二三日(木)から一八日(火)にかけて、横浜市民ギャラリーに於て、標記の戦争展が開催されました。

日吉台地下壕保存の会でもこの催しに参加し、写真パネルや表やパンフレットを出展しました。今年は展示スペースが限られていたこともあって、日吉台地下壕を知る上で重点的なものばかりを展示しました。

この「戦争展」期間中に「終戦記念日」があり、同日に「記念講演会」も開かれました。講演は旧海軍工廠で働いていた元台湾少年工の方々の体験談を交えて行われました。テレビニュースでも放映されましたので、ご覧になられた方があるかもしれません。神奈川県は「昔も今も基地の県」であって、講演や展示も多くがその実相・実像を現わしていました。

夏休み期間中とも重なったせいか、多くの来場者があり、盛況のうちに無事に終了しました。

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 25

強制買収された土地の返還

★A1氏・宮前

戦後間もなく、土地は返還された。戦災後、バラックを建ててもう少し西に住んでいたが、返還後ここに移った。

★K1氏・箕輪

強制買収された土地は、登記がしてなかったで、そのまま返して貰った。金は返却した。

★K2氏・箕輪

戦後二四〇二五年に、買上げられた土地を坪五円で払い下げるからという通知があった。二円という安い値段で強制的に買上げ、今度は五円で買戻せと言う。腹が立ったが、

買収しなければ競売にかけると言うので、否応無しに買収らざるを得なかった。

また、勝手に軍が建てた使いようのないカマボコ兵舎も買収れと言われ、これも競売すると嚇され仕方なく買収した。

さらに昭和三〇年代に入つて、軍が荒した畑が荒れたままになっていたので、市役所の役人が来て、雑地（最も税が高い）として課税すると言うので、「戦争中、軍が荒したので、元の状態に国がしてくれたら作物をつくるから」と言い、「どうしても、雑地にするなら裁判で争う」というと「裁判になったら、自分の首がとぶから」と言つて、農地のままにした。

我が家の北東側の丘の麓に赤い屋根の家があるのは、設営隊の兵士の炊事場だった所

で、未だに通産省のものであり（昭和六二年現在）、壊すことも出来ず放置されているが、地主は困っている。

戦後、かつての自分の土地が払い下げられる時、地下壕から出た土で田圃が埋められ、境界がはつきりしなかったり、海軍が他人から買上げた土地に家が移動させられたりしたため、農家同志気まずいことがあり、今でもこの話になるとごたごたが生じるので、タブーになっている。

戦後いつの頃か、市役所の役人が戦中・戦後の調査にやって来たが、何れもこの問題にひっかかり、調べずに帰っていった。

★M氏・日吉本町、

強制買収された土地は、登記されていなかったで、戦後、申請して返して貰った。金は返さなかった。



崩落した地下壕入口

地下壕から出た土で田圃が埋められた所に、土地の所有権などお構いなしに移転させたので、戦後土地の所有権をめぐってもめた。以前は、地境にはウツギの木が植えられていたが、地下壕から掘り出した土を捨てたために地境が分からなくなってしまったのである。今は耕地整理によりきちんとなっている。

（生協ニュース教職員版第四九号より抜粋転載）

